

2月1日 第1回えべつ未来市民会議 グループ意見交換の概要

■グループの色：赤色

■有識者委員：佐藤克之委員

■市民委員：富沢裕司委員、山崎智行委員、佐藤尚人委員、志水有希委員、
名和靖子委員、諏訪部容子委員

■意見の概要

〈最初に江別の問題点を一人ずつ発言〉

- 12号線から、1本中に入ると暗いので、街灯の整備等を行い、住んでみたいと思わせるような町にしてほしい。
- 275号線周辺が何もないので、産廃置き場になっている。世田豊平川では、環境の取り組みがあり、そのようなことができればいい。
昔から、「レンガ」と「ハツ目うなぎ」しかないが、今は、それを何か活用しようとしていることがわかる。もっといろいろアイデアをだせたらと思う。
- 江別駅前商店街が閑散としている。年々、建物が古くなって、壊して終わり、コミセンだけで寂しい。これから、その辺を議論したい。
- 「江別」というものをメディアに売っていきたい。市ができることと個人ができることは違ってくるが、企業誘致をし、歳入が増えて豊かになれば、「江別マダム（シロガネーゼのように）」みたいなイメージができる町になればいいと思う。
- 学校を利用し、高齢者と一体となって、学べるシステムができればいいと思う。
- 総花的な計画になりがちだが、戦略テーマに期待する。

[農業]

- 江別の農産物PRし、買いに来てもらうようにする。
- 江別小麦のPRをもっとするべきである。
- 江別の食料生産自給率を上げる対策をする必要がある。
- 後継者対策が必要である。

[企業誘致]

- 大学生の就職先の確保をしなければ、大学進学で江別にきても、卒業と同時に離れて行ってしまう（アルバイト先すらない）。
- 宿泊施設がないのは、必要がない町だからなのか。イベントがあっても札幌に人が流れてしまう。

[高齢者・意識改革]

- 活躍の場をつくる。
- 「高齢者」というのは失礼なくらい元気な人が多い。市民の方も意識改革が必要で、働け

る場をつくる必要がある。

- 高齢者の一人暮らしが増えてきているので、これからは安否確認も必要となってくる。一人暮らしの人たちのコミュニティ（集まる場）を作る必要がある。
- 市民特典として、市民は買い物の時に安くなるとか、除雪がきれいなストリートに賞をあげるなどし、市民を盛り上げてはどうか。

[駅・交通]

- シャッター通りに、にぎわいが戻るよう駅前を活性化する必要がある。
- 野幌駅の構内が寂しいので、お店などを充実させ、人がにぎわう駅にした方がよい。
- 野幌駅は、レンガの町の駅にしては、レンガの使用が少ない。もっと、レンガを活用したものにし、アピールするべきである。
- 札幌市の地下鉄を延伸してほしい。
- 公共交通を充実させ、空港へのアクセスも便利にする。
- 札幌からの素通りではなく、「道の駅」をつくり、「江別産」の農産物を売るなどして、江別に目を向けさせる、立ち寄らせる手法を考えてはどうか。「道の駅」をつくるには、お金がかかるので、河川防災ステーションの建物を有効利用させてはどうか。

[江別のイメージづくり]

- 歴史施設の保護をするなど古い建物にスポットを当て活用する。これが、たくさんあれば、江別の特徴になる。
- 全道・全国から集まる市営ライダーハウスを作る。全国から集まるライダーは札幌を素通りするので、江別にあれば他市町村に行くのも動きやすいのでよい。
- 「江別マダム」などイメージづくりをし、人を呼び込む。
- 新しいものを建てる時、もっとレンガを活用した方がよい。もっとレンガを大事にし、レンガの町に力を入れる。

《メディアの活用》

- ・新聞・テレビでのPRに力を入れる。道内へはテレビの効果が絶大である。
- ・若者へフェイスブック・ツイッターを活用、外への発信に力を入れる。
- ・市長ブログを開設し、常に市長の思い、考え等を発信するべきである。
- ・ゆるキャラがあるのが知られてないので、もっとアピールする必要がある。
- ・FM局をつくっては、どうか。
- ・「えべつ未来市民会議」の情報発信をしてもらいたい。スピード感が必要。

《海外への発信》

- ・聞いたことのない国などと姉妹都市、国際交流することで、「江別」の名をPRしてはどうか（ブータンなど）。
- ・中国などの映画の舞台として誘致し、アジアの観光客を呼び込む。

[除排雪]

○大きな道路は除雪が行き届いているが、路地に入ると道が狭く、車が行き交うことが難しいので、除排雪を徹底する。

《活用》

- ・例えば、発電施設などで、水・雪の利活用を考える。

[住環境]

- 小さな子どもが安心して遊べる場所、安全な地域であり続けられれば、人も増える。
- 教育施設の強化：教育人材の確保・教育にかける予算を充実する。

[土地等の活用]

- 原始林の有効活用をする。（観光・自然体験・宿泊・ライダーハウス など）
- 平らな町なので、サイクリングロードを整備し、自転車で町を散策できるようにする。
- JR の防風林を活用し、その中に駅直結の宿泊施設をつくると自然体験もでき、おもしろい。
- 江別・野幌・大麻以外の地域にどのように力を入れていくかを検討する必要がある。
- 主婦が活躍できるまちにする。

2月1日 第1回えべつ未来市民会議 グループ意見交換の概要

■グループの色：青色

■有識者委員：河西邦人委員

■市民委員：石栗和典委員、大作美佳委員、草野靖広委員、小島忍委員、佐藤幸子委員、高橋美香委員、山崎悟委員

■意見の概要

[強いまちづくり・買い物しやすい街]

○市内で働く場所を確保するため、企業誘致による雇用創出にもっと力を入れてほしい。

○地元商店街の活性化と商店街としての街並みの回復が必要。

○お年寄りの買い物需要への対応と専業主婦の雇用対策のため、ミニスーパー（コンビニ以上郊外型大型店未満。生協くらいの規模）を増やす。

[子育て・教育]

○放課後の教育環境の充実や保育園の利用可能時間の多様化等による働く女性の支援が必要。子供の安全確保にもつながる。

○空き教室の有効活用により、学校と地域住民の関わり・交流をはかる。

○高校独自の取組みにより高校生からの市外流出を防ぎ、江別の高校へ呼び込む。

○小中学生のスポーツ芸術活動が、江別市の取組は良好だと思うので、もっと外部の子育て世帯へPRすべき。

[ユニバーサルな街]

○道路や店舗のバリアフリー化をさらに進めて、高齢者や障がい者（車椅子等）でも暮らしやすいまちにしてほしい。

[自然エネルギー]

○原発に替わる太陽光・風力・水力等による電力供給を推進し、自然エネルギーを活用したまちづくりを。江別独自の取組みで国や世界に働きかけるくらいの意気込みが必要ではないか。

○雪をうまくエネルギーへ活用する方策は何か考えられないものか。

○環境先進都市（米国ポートランド「グリーンネイバーフッド」吹田良平著）を参考にまちづくりを進めてはどうか。

[交通（車がなくても暮らせる街）]

○札幌圏への公共交通機関の接続を強化し、利便性を向上すべき。

○バス路線の多様化、低床バスへの支援により様々なニーズに対応して公共交通を充実させてほしい。

- 商店・病院への循環バスがあればよいのでは。温泉施設や自動車学校等の送迎バスを活用し、コミュニティバスを運行してはどうか。
- 冬期間の交通量を確保するため、札幌圏への幹線道路の整備が必要。

[公共施設の魅力向上]

- 公園はたくさんあるが、小さい公園ばかりで魅力が無い。他市の人も訪れたいくなるようなもっと大きな公園を整備して欲しい。
- 河川防災ステーションをもっと活用できないものか。江別市民にも認知度が低いと思われる。
- レンガをもっとまちづくりに活用できないか。
- 除排雪のあり方を見直す必要があるのではないか。

[安全な街]

- 防犯機能付きの大型街路灯を設置し、夜間の犯罪減少をめざす。

[行政]

- 市議会の各委員会がそれぞれどんなことを審議しているのかを知りたい。
- 市への要請と、それを実施するための財政状況（財源）のバランスをどのように考えたらよいのか。

[優しい街]

- 住みたい街化への取組みを進めて行ってほしい。

2月1日 第1回えべつ未来市民会議 グループ意見交換の概要

■グループの色：黄色

■有識者委員：押谷一委員

■市民委員：齊藤良枝委員、島本和夫委員、瀬野朋恵委員、中野和代委員、
中村紘子委員、野戸谷睦委員

■意見の概要

〈江別全体のイメージを一言で言うと〉というテーマで意見交換〉

[豊かさ]

○森林公園があり、公園が多く、大きな川がある緑の町、緑と水のイメージ。

○自然（農村）と町（市街地）の両方がある。

○大麻団地には独居老人が多いが、静かで暮らしやすい、住民同士が寄り添っている静かな街のイメージ。

○少し行くと買い物はしやすいが、帰ると静かに暮らせ、都会じゃないけど過ごしやすい。

○札幌近郊で利便性がよい広大な定住地域が残っているところは他にはもうない。

→「住む」「人が住んでいる街」ということをもっと売りにしてもいいのでは？

○人があたたかい（地味さがホッとする）。

○札幌より雪が多い。

[都会の良さ]

○大麻は札幌のとなりで、札幌まで列車で10分程度、都会の部分もあるが、都会にない部分もある。

○札幌に通勤している人は生活の中で都会の札幌とそうでない江別の部分の使い分けができる。

○札幌に近いのでデパートなど大きな建物が無いよさがある。

○スーパーが徒歩圏内にあり、住みやすい。

○もう札幌に行って買うほどのものもあまりないので、だいたいは江別で間に合う。

[落ちつき]

○それぞれの地域でつながりはあるが突出していない、文化的にも低くないが目立っていない地味な街。

→良く言えば欲がなくガツガツしていないが、反面歯がゆい。観光でも何か大きなことをしようという気運がない。財政が厳しいなら収入をあげればいいのに、ハングリーさがない。

○目玉がなく、どんな街か説明しにくい。江別市民という意識が低い。

○札幌の人から見ると田舎、一流の店がなくてダサイイメージ。

[多様性]

○大麻・野幌・江別と3分されていて、大麻…通勤しやすい・野幌…一番栄えている・江別…寂れているというイメージ。

→地域によって特徴がありすぎてまとめにくい。野幌に官公庁が集まりすぎ。

○大麻は冷たい・野幌は暖かい・江別（本町）は古いイメージ。

○多様性があるので、地域ごとのきめ細かなサービスが欲しい、生活道路の整備が遅れている、除排雪が悪い。

○出来上がったものに対しては商品開発等注力するが（ハルユタカ等）、生産段階にはサービス・補助がない（知り合いの農家の話）。

[手づくり]

○他の町と比べて地域ごとのお祭り、商店街・自治会の手づくりのお祭りが多。大学・ボランティアが支えていて、敷居が低く参加しやすい。

[子育て]

○小・中学校とも徒歩圏で良いが、高校になると後悔する（市内にはレベルの高い高校がない）。

2月1日 第1回えべつ未来市民会議 グループ意見交換の概要

■グループの色：緑色

■有識者委員：隼田尚彦委員

■市民委員：景山奨委員、梶井正夫委員、高儀武志委員、寺岡秀一委員、山田明美委員、岸本佳廣委員

■意見の概要

〈最初に各委員から江別のことで今一番関心のある事柄を発表〉

- 子育て（小学生の子どもがいるので関心が高い）
- 人が集まること（もっとにぎわいを）
- 情報の開示（HPなど情報提供をもっと充実させて）
- 市民が地域を向いていない（地元消費・地産地消が足りない）
- 除排雪が不十分（同じ意見が2名）

[子育て]

- 江別で子どもを産んで育てたいと思わせるには何が必要か。
- 子どもの医療費や教育に係る負担を軽減すること。東京都江戸川区では中学生まで医療費の無料化を行い、人口増につながった。では、江別では何歳までできるのか。

[高齢化]

- 高齢者にとっても一生住み続けたいと思わせるには何が必要か。
- 特色ある介護・福祉のローカルルールを作り、リーズナブルな福祉施設があり、同時にサークル活動などの仲間づくり・コミュニティの力が必要である。そして、そのためにも除排雪の問題や日常の足（交通網）の整備が益々重要になってくる。

[観光資源（賑わい）]

- 江別市は道内で9番目に多い12万人の人口を有しているのに、TVの天気予報で江別が出てこないなど、埋もれてしまっている。国道を走るドライバーは通り過ぎるだけで、市民自身も地元で消費せず、札幌で買い物などをしているのが実態。
- まちのポテンシャルは非常に高い。例えば、やきもの市、レンガ工場、セラミックアートセンター、河川防災ステーション、ハルユタカ、えべちyunなどいくつも挙げられるのに、アピール不足、アピール下手なのではないか。

[江別駅]

- 江別駅及び駅前のシャッター街があまりにも寂しい。「江別市」の「江別駅」なんだからにぎわいを取り戻して欲しい。ただ、野幌も高架化のメリットが出ていない。
- シャッター街については、今は大型店に頼っているが突然撤退されることもあるので、中

小店舗が生き残れるようにすべきだ。

[学生の雇用先]

- 江別市は新規開業が少なく、経営者の高齢化が進んでおり、企業情報も少ない。
- 15歳～24歳までの人口は多いのに、25歳～34歳までは極端に少なくなっており、学生がたくさん住んでいるのに卒業後の就職先がないことがはっきり表れている。この学生達を卒業後も江別に定着させるための雇用が重要。そうすれば労働者人口が増える。

[人口増加]

- 人口増加が本当に必要か。12万人というのは適正な人口規模かもしれない。闇雲に人口増加を叫ぶ必要はない。まちの特色を決めたら収入・支出にメリハリを付けるべき。

[収入源]

- これからは何を収入源にして市税のUPを図るべきか。どの企業（業種）の何で稼ぐかの集中と選択が必要になる。

[環境]

- プラスチックのリサイクルをもっと徹底すべきである。また、本来は産業廃棄物なのに一般廃棄物に混ぜている業者がいる。きちんと監視すべきだ。

2月1日 第1回えべつ未来市民会議 グループ意見交換の概要

■グループの色：ピンク色

■有識者委員：佐々木貴子委員

■市民委員：深谷亮一委員、松本教子委員、寺田外治委員、相田晶子委員、笹原邦子委員

■意見の概要

〈江別の問題点を出し合う形で進行〉

[駅の開発を！]

○市内の3駅の構内や駅前に力を入れて開発しなければ江別の発展はない。具体的には、駅周辺に病院や、保育所、また大型書店や大型駐車場等がなければ駅に魅力がないし、駅を利用しようとならない。あれば岩見沢や美唄の人を江別にストップさせられるのではないか。このままでは電車離れが進んで車社会に拍車をかけるが、それではこれからの高齢化社会に対応できないのではないか。

○駅前を活性化して、江別に特急が停まるようなまちにしたい。

[バス]

○高齢化社会において、バスは一つの重要な交通手段だが江別は横の移動はできるが、縦の移動ができない。また、バス路線がないために工業団地までパートの人が朝歩いている。市営のバスや市内循環型バスがほしい。採算の問題があるならば、豆バス（コミュニティバス）などでカバーできるのではないか？

○自家用車を使わなくてもいいような街づくり。現状は車がないと買い物に行きにくい。

○大雪時の除排雪の回数を増やしてほしい（柔軟に対応）。もう少しきめ細やかにやらないと、結局車がなければ何も行動できないまちになってしまう。

○市内だけでは生活用品等の買い物が完結しない。それでは市民だけでなく、市外の人も江別に金を落とさないのは当然ではないだろうか。

[市役所]

○市民会議を開催して市民の意見を聞いているが、本当にその意見は反映されるのか？格好だけなら、税金の無駄遣いでしかない。市長は本気でこの会議の内容を次の総合計画に反映する気があるのか？

○市職員は江別に住むべき。そして江別を知るためにまちの中を歩くべき。

○市役所のサービスを充実してほしい。例えば茨城県守谷市では、市外から転入してきた市民が各課を回るのではなく、各課が市民の下に集まってくる。

[札幌に頼らない！]

○札幌市に頼らない、マネしない独自の行政を目指してほしい。

[財政関係]

《経済対策》

- もっと企業誘致をしなければ。企業も勤務先も少ない。
- 観光スポットなどをもっと探したり、作ったりする必要がある。例えば石狩川を観光に利用してはどうか？

《予算削減》

- 市の職員数や議員数とその給与が適正か。
- 市民から見て、要らないものを作らないでほしい。（既存のものの再利用や、新たに作る場合は、住民に是非を聞いてほしい。）
- JRの地下歩道や、3丁目の歩道橋は市民のほとんどが使いたがらない。要らないもの、使わないものをつくるべきではないし、そのようなところは犯罪の温床になりかねない。

[高齢者・障がい者への配慮]

- 障がい者への配慮あるまちづくりを進めてほしい。
- 希望通りの介護施設に入れるような仕組みの構築。ベッドが空いているのに入れないこともある。
- 単身高齢者や障がい者の介護など、高齢者などが安心して生活できるようにすべき。
- 市立病院によい医師を確保してほしい。すぐに独立してしまい、患者も連れていくのでは市立病院が稼げないのは当然。独立しても当番制にして市立病院でも働いてもらえるような仕組みにしてはどうか。

[（学校）施設は再利用を！]

- 今あるもの（学校）を再利用してほしい。
- 学校の統廃合によって、実際に通う子どもたちが距離などの面で困るのではないか。
- もっと学校と地域のつながりを。

[江別市のヘソは？]

- 江別市のヘソはどこか？
- 江別、野幌、大麻で人口が片寄っているように思う（大麻地区の高齢化の対策が必要）。
- 江別、野幌、大麻各地域のまとめをどのように考えているのか？

[ピーアールが足りない！]

- 江別市のPRをもっとしてほしい。アピール不足、もっと市外の人に江別を知ってもらい、市内にお金が落ちる仕掛けをしなければならない。
- 市内のイベント等も終わってから新聞等で初めて知る、ということが少なくない。

2月1日 第1回えべつ未来市民会議 グループ意見交換の概要

■グループの色：水色

■有識者委員：千里政文委員

■市民委員：佐々木愛委員、神千加委員、前後稔委員、内藤祐貴委員、峯田智也委員

■意見の概要

[高齢者対策]

○地域に密着した福祉サービスの充実を行ってほしい。大麻地区は、住みやすい場所ではあるが高齢化が著しく、商店街も空洞化している。巡回バスなどを走らせて、高齢者が買い物しやすい環境になればよい。

○高齢化対策として介護を充実させてほしい。高齢者の介護施設ができると雇用がさらに生まれて良いのではないか。

○複合施設をつくる時には、世代間交流のために、高齢者世代と子どもと一緒に活動できる施設にしてほしい。

○往診診療を充実してほしい。

[子育て支援]

○子どもをいっぱい生んで育てたいと思う人に江別市ならそれが可能と思えるような政策を行ってほしい。

○働きながら子育てしやすいように、予防接種を土・日に実施する月を設定し、父親も子育てに参加しやすくなると良い。(札幌で例があるので、ぜひ江別でも。)また、豊幌地区が孤立しているため、往診診療(本来総合医の担当だが)をやってほしい。

○保育園の待機児童減少に対する取り組みを行ってほしい。特に、0歳児の待機児童解消をお願いしたい。

○職場内保育所の開設があると良い。

○湯川公園に子どもの姿が少なくなっている。防犯等、安心して子どもを遊ばせられる環境をつくってほしい。

[都市基盤]

○公園のトイレの整備(バリアフリー化、子どもや高齢者のためのトイレの整備)。

○公園や川など、街の中の自然を充実させる。既存の市街地を広げることがもうできないと思うことから、既存の公園や施設をできるだけ保護・整備して、自然を保全していくべきでは。既存の市街地の活用で他市から人を呼べる。

○都市機能より住環境を。江別には、札幌にない魅力(住環境の良さや原始林)がある。

○大麻地区の国道12号線への連絡の不便さの解消。国道12号線によるまちの分断化の解消(大麻地区は造成のときに車が入りにくい構造となっており車での移動が不便)。

○道路が分断されておりメイン道路を整備してほしい。白樺通が途中で切れているので、国道275号線まで繋がると便利。幹線道路は動きやすいが、1本ずれると動きにくくなる。

○江別市内の公共交通が不便。バス路線の改善をしてほしい。1時間に1本しかないこともある。

[耐震化]

○小中学校の耐震化を急いで行ってほしい。小中学校が防災の安心マップの避難所になって

いるが、耐震化は大丈夫なのか。自分の家が倒壊した場合、どの建物が本当に安心なのかの情報がほしい。

- 公共施設等の耐震化について、根拠のある整備状況を公表すれば、江別市の安全性を他市へアピールできる。安心・安全のまちになってほしい。

[若い世代]

- 若い年代の人にどう興味や関心を持ってもらうか。若い人にはパワーがあり、若い人が盛り上がりれば、周りの人も盛り上がる。
- 若い人の雇用の場が少なく、札幌へ行ってしまう。地場産業の必要性も分かるが、札幌が隣にあるからこそ、地場産業の難しい面がある。札幌に勤務地を求めて、住環境を江別に求める人もいる。
- 活気が少ない気がする。野幌駅は高架となり整備されており、今後に期待されるが、江別駅、大麻駅（国道と反対側）の周辺に力を入れるべき。

[大学]

- 江別には大学がたくさんある。→大学生が卒業した後の雇用の場をつくる。→若い夫婦が子どもを持ち、江別で家を建てる、となると良い。大学生がそのまま定住してくれれば人口は伸びるはず。
- 地元4大学をもっと身近に。大学と市民との連携において希薄なところがある。大学の行事の時にもっと市民を巻き込んではどうか。江別の中に大学が4つもありながら、距離が遠く感じる。

[地元のPRを]

- 人口9位でありながら知名度が低い。江別出身のタレントの大泉洋さんに江別観光大使になってもらい、江別市の良さをもっと全国的にPRしてほしい。
- 江別のPR方法について検討してほしい。札幌で話を聞くと、どこ？と言われる。大麻、野幌があるところというイメージがある。
- 地場製品のPR。江別には良い農作物等があり、いつも江別で農作物を買っている。江別の良さをアピールできる。
- レンガのまちというが、どうしたいのか分からない。江別の観光の目玉が、地元の人にとってはそれほどのもとなっていない。

<その他(付箋紙以外の話題)>

[全体的な考え方]

- 江別の中で盛り上がっていかうと考える立場と札幌に隣接していることを利用して発展していく立場の2つの成長軸の考え方がある。地区別に抱えている問題が大きいため、向こう10年でこれぐらいできたら良いのではないかと、というところを抑えられたら良いのではないかと。
- 何とか江別を元気にしたい。